

かわい まゆ せんせい かながわけん から すいせん う けて れいわ ねん がつ JICA (こくさいきょうりょく 機構) の 海外青年協力隊 の 一員 として、ザンビア共和国 に 派遣 されています。



せんせい まゆ先生のザンビアにつき1

Muli bwaniji? (ムリ ブワンジ) Nili bwino, Zikomo. (ニリブウィーノ ジコモ)



ご無沙汰 しています。(はじめましての人もいますね。) 先日、「校長のつばやき 12」で紹介された川井です。3月まで向陽館で社会の先生をしていました。7月からは、アフリカのザンビアという国に来ています。

どうして向陽館の先生がアフリカにいるのか・・・というのは、いったん置いておくとして、今回は、ザンビアとあいさつについて紹介したいと思います。

まずは、ザンビアについて。「アフリカの国」と聞いて、みなさんはどの国を思い浮かべますか？正直、私も行くまでは「ザンビア？どこにあるの??」と思っていました。(恥ずかしながら、社会の先生でもそんな感じです。)

右にアフリカの地図を載せましたが、赤く塗られているところがザンビアです。アフリカの南に位置する国で、8つの国に囲まれた内陸国です。(ボツワナもちょっとだけ接していますよ。笑)

最近だと、サッカーの女子ワールドカップで、日本が最初に対戦したのがザンビアだったので、知っている人もいるかな？ザンビアの人もサッカーが大好きです。(私が道を歩いていて、日本人だとわかると「5-0(ファイブ ゼロ)」と笑顔で声を掛けてきます。笑)

ザンビアの文化や国民性なども、別の機会でも改めて書きたいと思っています。



次にあいさつの話をします。「校長のつばやき 12」にもありましたが、ザンビアの公用語は英語です。

しかし、それ以外にニャンジャ語やベンバ語、トンガ語、ロジ語といった7つの地方公用語があります。それもそのはず、ザンビアには73の民族が暮らしているんです。そのため、「公用語は英語」と言えど、地域によって話される

言語が異なります。今回は、首都でよく話されているニャンジャ語のあいさつを紹介します。

「日本のあいさつを紹介してください。」と言われたら、あなたは何を紹介しますか？
「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」の3つでしょうか。

冒頭にも書きましたが、ニャンジャ語の基本のあいさつは、“Muli bwanji?” (ムリ ブワンジ) 英語で言うと “How are you?” (「お元気ですか」) です。それに対する返事は “Nili bwino. Zikomo.” (ニリブウィーノ ジコモ) なので、英語で言うと、“I'm fine. Thank you.” (「元気です。ありがとう。」) となります。基本的には、どんな



時間でもこのあいさつが使えます。しかし、ザンビアのあいさつのおもしろいところは、時間や場面で色々なあいさつがあるところなんです。

例えば朝なら、“Mwauka bwanji?” (ムワウカ ブワンジ。直訳すると「自覚めはどうでしたか?」、言い換えると「おはよう。」) と聞かれるし、ごはんを食べた後だと “Mwadya bwanji?” (ムワジャ ブワンジ。直訳すると「食事はどうでしたか?」) と言われ、授業が終わった後だと “Mwapunsira bwanji?” (ムワブンジーラ ブワンジ。直訳すると「勉強はどうでしたか?」) など、その時の状況に合わせて、あいさつが変化します。その都度、返事の仕方もあるので、あいさつの度に「今のあいさつは何を聞かれたんだろう?」と、頭の中で「?」がたくさん浮かびます。

ニャンジャ語初心者の私には、もっとシンプルなあいさつの方が・・・と思うこともありますが、その人の状況に合わせたあいさつをする優しさや思いやりに、「あいさつ」の良さがあるのかも。



(2023.8.30 川井 真由)